

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 6 年 6 月 10 日(2024.6.10)

【国際公開番号】WO2020/201079

【公表番号】特表 2022-526795(P2022-526795A)

【公表日】令和 4 年 5 月 26 日(2022.5.26)

【年通号数】公開公報(特許)2022-093

【出願番号】特願 2021-558542(P2021-558542)

【国際特許分類】

10

C 0 7 D 4 0 1 / 1 4 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 7 D 4 0 3 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 N 2 5 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 P 7 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 P 7 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 P 5 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 P 1 5 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 N 4 3 / 6 0 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 N 4 7 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

A 0 1 N 5 3 / 1 4 (2 0 0 6 . 0 1)

20

A 0 1 M 1 / 2 0 (2 0 0 6 . 0 1)

【F I】

C 0 7 D 4 0 1 / 1 4 C S P

C 0 7 D 4 0 3 / 0 4

A 0 1 N 2 5 / 0 0 1 0 2

A 0 1 P 7 / 0 4

A 0 1 P 7 / 0 2

A 0 1 P 5 / 0 0

A 0 1 P 1 5 / 0 0

A 0 1 N 4 3 / 6 0

30

A 0 1 N 4 7 / 0 2

A 0 1 N 5 3 / 1 4

A 0 1 M 1 / 2 0 A

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 6 年 5 月 31 日(2024.5.31)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

40

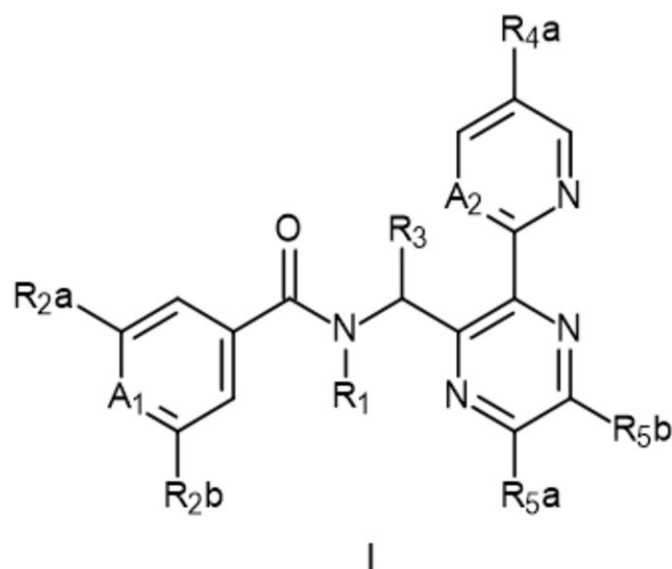
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 I

【化 1】



10

(式中、

R_1 は、H、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ シアノアルキル、アミノカルボニル $C_1 \sim C_6$ アルキル、ヒドロキシカルボニル $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ニトロアルキル、トリメチルシラン $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ハロアルキル、 $C_2 \sim C_6$ アルケニル、 $C_2 \sim C_6$ ハロアルケニル、 $C_2 \sim C_6$ アルキニル、 $C_2 \sim C_6$ ハロアルキニル、 $C_3 \sim C_4$ シクロアルキル $C_1 \sim C_2$ アルキル -、 $C_3 \sim C_4$ シクロアルキル $C_1 \sim C_2$ アルキル - (ここで、前記 $C_3 \sim C_4$ シクロアルキル基は、1個若しくは2個のハロ原子で置換されている)、オキセタン - 3 - イル - CH_2 -、ベンジル又はハロ若しくは $C_1 \sim C_6$ ハロアルキルで置換されたベンジルであり；

20

A_1 は、N又はC - R_{2c} であり；

R_{2c} は、H、ハロゲン、 $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_3$ アルコキシ、又は $C_1 \sim C_3$ ハロアルコキシであり；

30

R_{2a} は、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルコキシ； $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_3$ アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～3個の置換基で置換された $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル； $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～3個の置換基で置換された $C_3 \sim C_6$ シクロアルコキシ； $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル $C_1 \sim C_4$ アルキル、 $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル $C_1 \sim C_4$ アルコキシ； $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_3$ アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～5個の置換基で置換された $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル $C_1 \sim C_4$ アルキル； $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～5個の置換基で置換された $C_3 \sim C_6$ シクロアルキル $C_1 \sim C_4$ アルコキシ； $C_1 \sim C_5$ シアノアルキル、 $C_1 \sim C_4$ アルキルスルホニル、 $C_1 \sim C_4$ ハロアルキルスルホニル、 $C_1 \sim C_4$ アルキルスルフィニル、又は $C_1 \sim C_4$ ハロアルキルスルフィニルであり；

40

R_{2b} は、H、ハロゲン、 $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキルチオ、 $C_1 \sim C_3$ アルコキシ、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルコキシ、 SF_5 、又はCNであり；

R_3 は、 $C_1 \sim C_3$ アルキル又は $C_1 \sim C_3$ ハロアルキルであり；

A_2 は、C R_{4b} 又はNであり；

R_{4b} は、水素、又はハロゲンであり；

R_{4a} は、シアノ、又は $C_1 \sim C_3$ ハロアルコキシであり；

R_{5a} 及び R_{5b} は、互いに独立して、水素、ハロゲン、CN、 $C_1 \sim C_3$ アルキル、 $C_1 \sim C_3$ ハロアルキル、 $C_3 \sim C_4$ シクロアルキル、 $C_1 \sim C_3$ アルコキシ、及び $C_1 \sim C_3$ ハロア

50

ルコキシから選択される)の化合物;又は式Iの前記化合物の農芸化学的に許容可能な塩、立体異性体、鏡像異性体、互変異性体又はN - オキシド。

【請求項2】

R₃は、メチルである、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】

A₁は、Nである、請求項1又は請求項2に記載の化合物。

【請求項4】

A₁は、C - R_{2c}であり、ここで、R_{2c}は、水素又はハロゲンである、請求項1又は請求項2に記載の化合物。

【請求項5】

R_{2c}は、水素である、請求項4に記載の化合物。

10

【請求項6】

R₁は、水素、メチル、エチル、n - プロピル、イソブチル、シクロプロピルメチル又はH C C C H₂ - である、請求項1 ~ 5のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項7】

R_{2a}は、C₃ ~ C₆シクロアルキル、C₃ ~ C₆シクロアルコキシ; C₁ ~ C₃アルキル、C₁ ~ C₃ハロアルキル、C₁ ~ C₃アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1 ~ 3個の置換基で置換されたC₃ ~ C₆シクロアルキル; ハロゲン及びC₁ ~ C₃ハロアルキルから独立して選択される1 ~ 5個の置換基で置換されたC₃ ~ C₆シクロアルキルC₁ ~ C₄アルキル; C₁ ~ C₅シアノアルキル、C₃ ~ C₆シクロアルコキシ、C₁ ~ C₄ハロアルキルスルホニル又はC₁ ~ C₄ハロアルキルスルフィニルである、請求項1 ~ 6のいずれか一項に記載の化合物。

20

【請求項8】

R_{2b}は、ハロゲン、C₁ ~ C₃ハロアルキル、C₁ ~ C₃ハロアルキルチオ、C₁ ~ C₃アルコキシ、C₁ ~ C₃ハロアルコキシ、又はCNである、請求項1 ~ 7のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項9】

R_{4a}は、シアノ、又はC₁ ~ C₃フルオロアルコキシである、請求項1 ~ 8のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項10】

A₂は、Nである、請求項1 ~ 9のいずれか一項に記載の化合物。

30

【請求項11】

A₂は、CHである、請求項1 ~ 9のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項12】

R_{5a}及びR_{5b}は、互いに独立して、水素、ハロゲン、及びメチルから選択される、請求項1 ~ 11のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項13】

請求項1 ~ 12のいずれか一項に記載の化合物、1種以上の助剤及び希釈剤、並びに任意に1種以上の他の有効成分を含む、殺有害生物用組成物。

【請求項14】

40

(i) 昆虫、ダニ類、線虫又は軟体動物を駆除及び防除する方法であって、有害生物、有害生物の生息地、又は有害生物による攻撃を受けやすい植物に、殺虫的、殺ダニ的、殺線虫的又は殺軟体動物的に有効な量の、請求項1 ~ 12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項13に記載の組成物を適用することを含む方法; 又は

(ii) 昆虫、ダニ類、線虫又は軟体動物による攻撃からの植物繁殖材料の保護のための方法であって、前記繁殖材料又は前記繁殖材料が植えられている場所を、有効量の、請求項1 ~ 12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項13に記載の組成物で処理することを含む方法; 又は

(iii) 請求項1 ~ 12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項13に記載の組成物を有効量で投与することを含む、必要としている非ヒト動物の体内又は体表において寄

50

生虫を防除する方法。

【請求項 15】

請求項 1 ~ 12 のいずれか一項に記載の化合物又は請求項 13 に記載の組成物を含むか、又はそれで処理されているか若しくはそれに付着されている、植物繁殖材料。

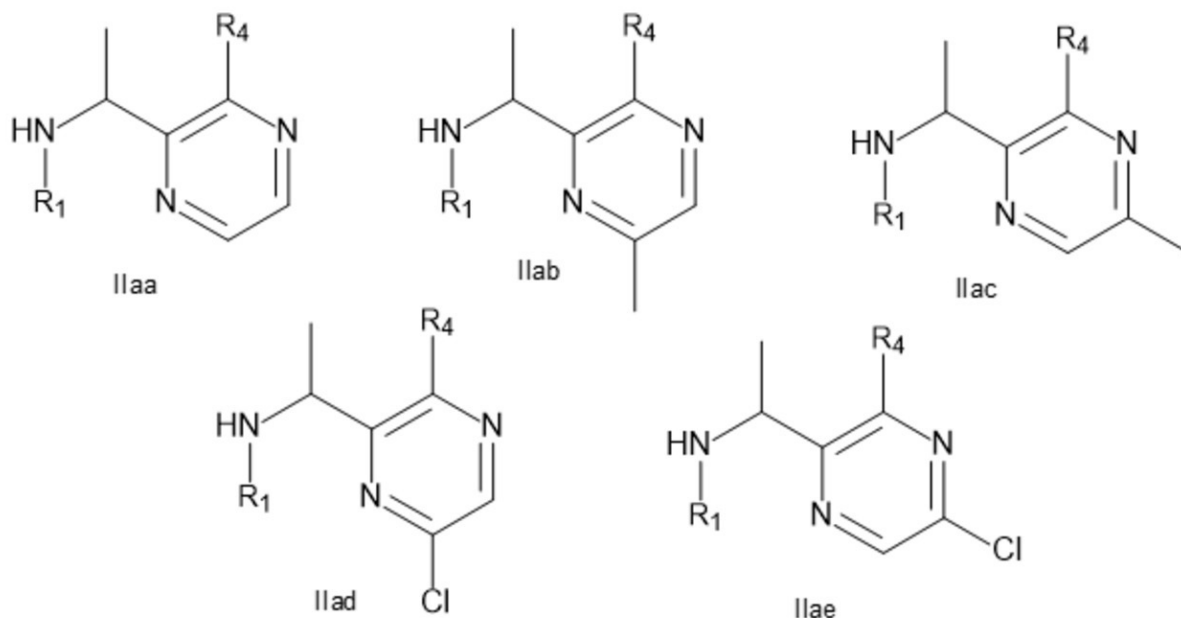
【請求項 16】

植物繁殖材料は、種子、果実、塊茎、カーネル、苗、吸枝、穀粒、鱗茎、根茎、挿し木、又は挿し芽である、請求項 15 に記載の植物繁殖材料。

【請求項 17】

式 I I a a ~ I I a e

【化 2】



(式中、 R_1 は、請求項 1 又は 6 のいずれかに定義されているとおりであり、 R_4 は、式 I 中の A_2 及び置換基 R_{4a} を含有する環式基であり、ここで、 A_2 及び R_{4a} は、請求項 1、9、10 又は 11 のいずれか一項に定義されているとおりである) の化合物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0497

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0497】

本発明の式 I の化合物及びその組成物は、上記のタイプの有害生物からの、植物繁殖材料、例えば果実、塊茎又はカーネルなどの種子又は苗の保護にも好適である。繁殖材料は、植え付けの前にこの化合物で処理され得、例えば、種子は、種まきの前に処理され得る。代わりに、この化合物は、種子仁を液体組成物に浸漬することによって又は固体組成物の層を塗布することによって種子仁に塗付され得る（コーティング）。繁殖材料が施用の場所に植え付けられる場合、この組成物を例えばドリルまき時に畝間に施用することも可能である。植物繁殖材料のためのこれらの処理方法及びこのように処理された植物繁殖材料は、本発明のさらなる主題である。典型的な処理率は、植物及び防除される有害生物 / 真菌に応じて決まり、一般に、100 kg の種子当たり 1 ~ 200 グラム、好ましくは、100 kg の種子当たり 5 ~ 150 グラム (100 kg の種子当たり 10 ~ 100 グラム など) である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 4 9 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 4 9 8 】

種子という用語は、真正種子、種子片、吸枝、穀粒、鱗茎、果実、塊茎、穀粒、根茎、挿し木、挿し芽などを含むが、これらに限定されないあらゆる種類の種子及び植物の珠芽を包含し、好ましい実施形態において、真正種子を意味する。

10

20

30

40

50